

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100239		
法人名	社会医療法人 敬和会		
事業所名	グループホームおおざい憩いの苑 きらめき		
所在地	大分市大字志村字谷ヶ迫587番地1		
自己評価作成日	令和4年 11月 18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和5年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたらしくいきいきと」を概念に、入居されている方々の、精神的安定と身体機能を低下させないことを第一に考えたサービスの提供を行っています。周囲を緑に囲まれた静かな環境で、四季折々を肌で感じ、ゆったりした時間を過ごせ、家族が来苑された際は近況報告を行い、家族との連携を図りながら入居されている方々の支援を共に行うよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・医療との連携が取れており、緊急時にはすぐに対応してもらい、家族の安心につながっている。
- ・朝の申し送りを廃止し、個々に日々の出来事や思ったことを自由にウェブ上に記入することで、時間にもゆとりが出来、漏れることなく全職員に周知できる。
- ・全職員が利用者一人ひとりの日常を把握出来ているため個々に合わせた支援ができています。
- ・法人内の敷地に母体の老健施設があり、災害時などの協力体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬和会の理念と地域密着型サービスでの意義を踏まえた理念を掲げ、地域社会との交流につなげているが、新型コロナウイルス感染症の関係もあり、交流は薄い。その他の理念に関しては管理者及び職員は深く理解し、ケアの実践につなげている。	法人とは別に具体的な理念を掲げ、理念をもとに家庭での生活の継続に近づくように、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の体調を考慮し、天候の良い日は散歩やドライブに出かけ、そこで出会った地域の方と挨拶を交わす。自治会へ加入し、お祭りや地域行事に活かそうと考えているが感染症の為ほぼ中止。	市からの委託を受け、年4回認知症家族支援事業を行っている。地域の人からは行事の情報もらい、昨年はコスモスの種をまいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通し、地域の方々へ認知症の理解に努めている。 認知症カフェの開催を行い、地域住民、家族へ認知症についての知識、予防方法などについて講演を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動内容や、現状報告、事故・ひやりハット報告を行い、貴重なご意見を頂き、ケアの改善に活かしている。地域行事の有無や包括の情報も共有している。	運営推進会議は、コロナ禍の中唯一の地域交流の場となっている。混雑の少ない穴場や花の見ごろなど教えてもらい、ドライブの目的地選定の目安となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加していただき、介護保険サービスの改定や加算についての助言や指導を受けながらサービスの向上につなげている。	介護保険でのわからない点など、電話や窓口にて助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員で安全面を配慮しながら、その時々での行動を予測、対応し拘束のないケアを実践している。	法人内で勉強会を行っている。スピーチロックについても状況に合わせて臨機応変に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護や身体拘束についての研修に参加し、職員全員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部の勉強会に参加。事業所内で伝達を行い情報を共有し、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、署名、捺印をしていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や苦情に関しては、管理者や介護主任が窓口となっている。ご意見箱を設置し、気軽に意見が伝えられるよに場所も考慮し設置している。	コロナ禍ではあるが面会は多く、家族とはその都度話をしている。その他の家族には電話やラインで連絡を取り合い、意見を聞くようにしている。2か月に1度便りを郵送し、近況を知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の場で聞くようにしている。また、会議の場では他の職員の耳もあるので配慮して聞くようにしている。また、日頃から職員とのコミュニケーションを図り意見交換を行っている。	勤務時間や希望休、有給なども気軽に調整できるよう配慮している。職員の悩みなど、その都度言いやすいよう配慮しコミュニケーションが取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるように取り組んでいる。勉強の機会にはなるべくたくさんの職員が参加出来るように勤務調整を行っている。勤務希望は出来る限り全員に組み込んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し、目標達成に向け、研修を受ける機会を与えスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所などと交流を図り、共に学んだり、親睦を深めるなど、お互いのサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の意向を確認している。入居直後は、環境の変化に不安を感じていると思うので、目配り、気配りを行い安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時に本人及び家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用されていた事等、引き続き利用したいサービス等あれば、今後も継続して支援が受けら得るようにしている。精神的不安を図る必要がある場合は医療デイケアの調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能を理解し出来ることを積極的に行っていたい。また、共に行っていく上で人生の先輩であることを尊重しお互いに支えあれる関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際、近況報告を行っている。必要に応じて病院受診等の協力支援を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍もあり家族以外の面会は少なくなっているが、ホームに友人が来られた際は、感染対策を行ったうえで支援している。今後も関係が途切れないように支援に努めていく。	コロナ禍で馴染みの場を訪れることは難しいが、家族とは電話やラインでコミュニケーションをとるように支援している。車での外出時に車窓から懐かしい景色を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について職員が情報を共有し利用者同士の関係がスムーズに行えるように職員が働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、これまでの生活の継続が損なわれないように環境の設定、支援内容、注意点などについて情報共有し、細やかな連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを図る中で、本人の思いや意向の把握に努めている。また、記録などから本人の希望をくみ取るように努めている。	日頃の会話の中や生活歴、家族の話の中から思いや意向を把握し、本人、家族の気持ちに寄り添い日々の生活がより良いものになるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、家族、関係者、医療機関からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定や様子観察、心身の状態を把握し、記録に繁栄し職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を定期的に聞き、それらの希望を踏まえ、ケアマネを中心にユニット間で話し合いを行いケアプランに繁栄させている。	3か月に1度生活機能について話し合い、6か月ごとに職員全員で、家族の意見も含めてモニタリングを行い見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録には介護計画に沿った支援記録や変化や気づきを記載し、職員間で共有し、ケア変更に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族が定期受診に付き添いがどうしても出来ない場合は、職員が付き添いの受診支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会などで、地域包括支援センターの職員や、民生委員、自治会長より、地域行事の情報をいただき参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医または協力医療機関を定期的に受診又は往診していただき、健康管理に努めている。必要時は情報提供を行っている。	入居時に本人、家族と話し合い、ほとんどの人が訪問診療を受けている。緊急時にもすぐに対応してもらえ、家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護職が入居者のバイタル測定を毎日行い、常に情報を共有している。また、主治医へ必要な情報を伝え指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体である岡病院とは24時間医療連携体制が可能であり、スムーズな対応が来ている。近くの姫野医院の定期的な往診もあり、情報を共有することで、入退院の受け入れ調整も円滑に出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関する説明を行い、同意書をいただいている。また、状態に合わせて再度意向確認を行っている。	入居時に家族に対し、説明し、重度化した時に改めて家族と話し合い、医療関係者と連絡を密に取りながら支援している。終末期には家族に対して感染対策を徹底しながら面会も許可している。職員に対しても、緊急時症状別マニュアルを作成し研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が全体必須として開催しているBLS研修に参加し、実践力を身につけるよう努めている。AEDを設置し、設置協力会社の職員による指導も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、消防署の協力を得て行っている。地域防災訓練にも職員、利用者共に参加している。市の防災メールも活用し早期情報入手に努めている。	自然災害時の職員の安否確認や出勤状況を見極め、法人内での応援を臨機応変にできるよう確認している。事業所内に備蓄を3日分完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行うに当たっては必ず声掛けを行いプライバシー保護に留意している。各居室のドアは、本人がいるいないにかかわらず閉めているが、リスクに応じて居室のドアを開け対応することもある。	一人ひとりのプライドを尊重し、呼び方や誘導の仕方など配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において常にコミュニケーションを図り、本人の思いを引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人ひとりの体調や生活パターンに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室の訪問を依頼し、本人の希望に添って行っている。日常の衣類も出来るだけ本人と一緒に選ぶこととしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は感染対策としパネルを挟み召し上がっていただいております職員と共に食事はしないように配慮している。音楽をかけたりと雰囲気作りを行い楽しい空間を提供することを心掛けている。食後の下膳、テーブル拭きなど、出来ることは一緒に行っている。	食事は法人内で作られ、月に1度給食会議があり、要望を伝えている。月2回おやつのでゼリーやぜんざいなどみんなで手作りしている。春にはふきを摘み佃煮を煮たり、梅ジュースなど作った。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量を記録し職員が把握できるようにしている。また、個々の状態に合わせて、食事形態、食器、自助具の工夫、食事介助方法に留意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行うよう促している。自身でできる利用者には残沙物の確認を行い清潔を保ち、自身では難しい利用者には介入し、うがい等自身で出来る部分を行ってもらっている。必要に応じ訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターン、排泄間隔を把握し、声掛け誘導を行っている。パンツ、パッド類の汚染がなく清潔な状態で排泄出来るように支援している。	日中は排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレに誘導している。夜間はおむつの人が多く、安眠を妨げないよう様子を見ながらおむつ交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、散歩、レク体操などの適度な運動を行い、便秘予防に努めている。下剤、整腸剤は主治医に処方していただき調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。体調の変化や入浴拒否等あった場合は、日時の変更、清拭、更衣など行い対応している。	入居時に重度化した場合の入浴や回数の説明を行っている。やむなくシャワー浴しかできない人のために脱衣所や浴室の温度に気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態を考慮したうえで活動的に過ごし、夜間の安眠につなげられる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに添って職員が責任を持ち、服薬、服薬の見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りを持っていただく為に、好きなこと、できること、得意なことを見出し活動の時間に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり状況に応じて、ドライブ、散歩、外気浴などの声掛け誘導を行う。また、地域行事参加や家族行事の外出等、本人の希望を聞きながら支援している。	季節に応じて花見やドライブに出かけている。駐車場で散歩やデッキでの日光浴は日常的に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人での金銭管理は行っていない。希望に応じて少額であれば自己管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応。コロナ禍で家族希望時にはテレビ電話を使用し不安軽減に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のホールは季節の貼り絵や、塗り絵、個人の作品を掲示している。常時快適な温度調整を行い、静かでくつろげる空間を提供している。	コロナ禍に配慮してテーブルにはパーテーションを配置しているが、ソファーにはゆったりと座ってテレビを見たり、和室のこたつで横になったりし、くつろげるスペースとなっている。廊下には季節に応じた貼り絵や写真が配置され、季節感が出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座りテレビを観たり、和室で横になってお昼寝をするなど、入居者が思い思いに過ごせ、まるで自宅で過ごしているかのように安心した環境の提供を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族の写真、大切な物を持参し、馴染みのあるものに囲まれ、居心地よく過ごせるようにしている。	居室には衣服がかけられ、家族の写真、たんす、ハンガーや椅子が置かれ、家族が来たときはここでくつろぐ様子が伺われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように、家具の配置、同線の確保など工夫し、一人で行動できるように廊下には手すりを設置している。居室、トイレ、浴室等わかるようにプレートを設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100239		
法人名	社会医療法人 敬和会		
事業所名	グループホームおおざい憩いの苑 ほほえみ		
所在地	大分市大字志村字谷ヶ迫587番地1		
自己評価作成日	令和4年 11月 18日	評価結果市町村受理日	令和5年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和5年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あなたらしくいきいきと」を概念に、入居されている方々の、精神的安定と身体機能を低下させないことを第一に考えたサービスの提供を行っています。周囲を緑に囲まれた静かな環境で、四季折々を肌で感じ、ゆったりした時間を過ごせ、家族が来苑された際は近況報告を行い、家族との連携を図りながら入居されている方々の支援を共に行うよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームおおざい憩いの苑きらめきに記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬和会の理念と地域密着型サービスでの意義を踏まえた理念を掲げ、地域社会との交流につなげているが、新型コロナウイルス感染症の関係もあり、交流は薄い。その他の理念に関しては管理者及び職員は深く理解し、ケアの実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の体調を考慮し、天候の良い日は散歩やドライブに出かけ、そこで出会った地域の方と挨拶を交わす。自治会へ加入し、お祭りや地域行事に活かそうと考えているが感染症の為ほぼ中止。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通し、地域の方々や認知症の理解に努めている。 認知症カフェの開催を行い、地域住民、家族へ認知症についての知識、予防方法などについて講演を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の活動内容や、現状報告、事故・ひやりハット報告を行い、貴重なご意見を頂き、ケアの改善に活かしている。地域行事の有無や包括の情報も共有している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員会に参加していただき、介護保険サービスの改定や加算についての助言や指導を受けながらサービスの向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員で安全面を配慮しながら、その時々行動を予測、対応し拘束のないケアを実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護や身体拘束についての研修に参加し、職員全員で虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部の勉強会に参加。事業所内で伝達を行い情報を共有し、職員の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、署名、捺印をしていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や苦情に関しては、管理者や介護主任が窓口となっている。ご意見箱を設置し、気軽に意見が伝えられるよに場所も考慮し設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議の場で聞くようにしている。また、会議の場では他の職員の耳もあるので配慮して聞くようにしている。また、日頃から職員とのコミュニケーションを図り意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるように取り組んでいる。勉強の機会にはなるべくたくさんの職員が参加出来るように勤務調整を行っている。勤務希望は出来る限り全員に組みいれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による目標管理シートを作成し、目標達成に向け、研修を受ける機会を与えスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所などと交流を図り、共に学んだり、親睦を深めるなど、お互いのサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、本人の意向を確認している。入居直後は、環境の変化に不安を感じていると思うので、目配り、気配りを行い安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、面接調査時に本人及び家族の要望や意見を聞き対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用されていた事等、引き続き利用したいサービス等あれば、今後も継続して支援が受けら得るようにしている。精神的不安を図る必要がある場合は医療ケアの調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残存機能を理解し出来ることを積極的に行っていた。また、共に行っていく上で人生の先輩であることを尊重しお互いに支えあれる関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際、近況報告を行っている。必要に応じて病院受診等の協力支援を依頼している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍もあり家族以外の面会は少なくなっているが、ホームに友人が来られた際は、感染対策を行ったうえで支援している。今後も関係が途切れないように支援に努めていく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性について職員が情報を共有し利用者同士の関係がスムーズに行えるように職員が働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでも、これまでの生活の継続が損なわれないように環境の設定、支援内容、注意点などについて情報共有し、細やかな連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを図る中で、本人の思いや意向の把握に努めている。また、記録などから本人の希望をくみ取るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの作成、家族、関係者、医療機関からの情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル測定や様子観察、心身の状態を把握し、記録に繁榮し職員間の情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向を定期的に聞き、それらの希望を踏まえ、ケアマネを中心にユニット間で話し合いを行いケアプランに繁榮させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録には介護計画に沿った支援記録や変化や気づきを記載し、職員間で共有し、ケア変更を活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族が定期受診に付き添いがどうしても出来ない場合は、職員が付き添いの受診支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会などで、地域包括支援センターの職員や、民生委員、自治会長より、地域行事の情報をいただき参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医または協力医療機関を定期的に受診又は往診していただき、健康管理に努めている。必要時は情報提供を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護、介護職が入居者のバイタル測定を毎日行い、常に情報を共有している。また、主治医へ必要な情報を伝え指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体である岡病院とは24時間医療連携体制が可能であり、スムーズな対応が出来ている。近くの姫野医院の定期的な往診もあり、情報を共有することで、入退院の受け入れ調整も円滑に出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に関しての説明を行い、同意書をいただいている。また、状態に合わせて再度意向確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人が全体必須として開催しているBLS研修に参加し、実践力を身につけるよう努めている。AEDを設置し、設置協力会社の職員による指導も定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施し、消防署の協力を得て行っている。地域防災訓練にも職員、利用者共に参加している。市の防災メールも活用し早期情報入手に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアを行うに当たっては必ず声掛けを行いプライバシー保護に留意している。各居室のドアは、本人がいるいないにかかわらず閉めているが、リスクに応じて居室のドアを開け対応することもある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において常にコミュニケーションを図り、本人の思いを引き出すよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、入居者一人ひとりの体調や生活パターンに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容室の訪問を依頼し、本人の希望に添って行っている。日常の衣類も出来るだけ本人と一緒に選ぶこととしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は感染対策としパネルを挟み召し上がっていただき職員と共に食事はしないように配慮している。音楽をかけたりと雰囲気作りを行い楽しい空間を提供することを心掛けている。食後の下膳、テーブル拭きなど、出来ることは一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分量を記録し職員が把握できるようにしている。また、個々の状態に合わせて、食事形態、食器、自助具の工夫、食事介助方法に留意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行うよう促している。自身でできる利用者には残沙物の確認を行い清潔を保ち、自身では難しい利用者には介入し、うがい等自身で出来る部分を行ってもらっている。必要に応じ訪問歯科を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターン、排泄間隔を把握し、声掛け誘導を行っている。パンツ、パッド類の汚染がなく清潔な状態で排泄出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、散歩、レク体操などの適度な運動を行い、便秘予防に努めている。下剤、整腸剤は主治医に処方していただき調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施している。体調の変化や入浴拒否等あった場合は、日時の変更、清拭、更衣など行い対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態を考慮したうえで活動的に過ごし、夜間の安眠につなげられる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに添って職員が責任を持ち、服薬、服薬の見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張りを持っていただく為に、好きなこと、できること、得意なことを見出し活動の時間に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり状況に応じて、ドライブ、散歩、外気浴などの声掛け誘導を行う。また、地域行事参加や家族行事の外出等、本人の希望を聞きながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個人での金銭管理は行っていない。希望に応じて少額であれば自己管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて対応。コロナ禍で家族希望時にはテレビ電話を使用し不安軽減に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のホールは季節の貼り絵や、塗り絵、個人の作品を掲示している。常時快適な温度調整を行い、静かでくつろげる空間を提供している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座りテレビを観たり、和室で横になってお昼寝をするなど、入居者が思い思いに過ごせ、まるで自宅で過ごしているかのように安心した環境の提供を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や家族の写真、大切な物を持参し、馴染みのあるものに囲まれ、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように、家具の配置、同線の確保など工夫し、一人で行動できるように廊下には手すりを設置している。居室、トイレ、浴室等わかるようにプレートを設置している。		